

1. 頼朝伝説（武士政権への道）

平治の乱後、永暦元年(1160年)3月、清盛によって13歳の頼朝は伊豆国の蛭ヶ小島へと流された。治承4年(1180年)8月17日に以仁王の令旨に応じて挙兵するも、石橋山合戦で敗退。平家方の坂東武士が包囲する中、海を渡り安房の竜島に漂着する。石橋山の敗戦から1ヶ月足らずで坂東武士を糾合して、先祖の旧領地である鎌倉を本拠地とするため、鎌倉へ向かう。



蛭ヶ小島記念碑（伊豆韮山）

「石橋山の合戦」

1180年(治承4年)8月23日夕方、伊豆で挙兵した源頼朝は、伊豆・相模の武将の援軍を得て300余騎を従え、鎌倉に向かう途中の石橋山で谷をはさんで、平氏方の大庭景親の軍勢3,000余騎に、後方を伊東祐親の300騎に挟まれ大苦戦となった。

頼朝方の先陣・佐奈田与一義忠が敵将の俣野五郎景久と対戦したのを発端として戦闘に入ったが、崖地のため全面戦闘にならず頼朝は『九死に一生を得て』、土肥実平の導きで山中(奥湯河原方面)に逃げ得たのである。



石橋山古戦場（佐奈田霊社とみかん畑）

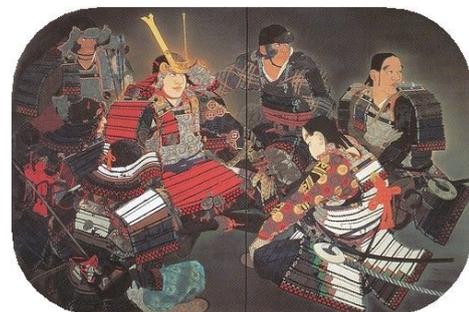


石橋山古戦場跡（ねじり畑）

安房国へ逃れるまでの5日間（源頼朝が身を隠したと言われている代表的な場所）



土肥椋山 しとどの窟(いわや)



洞窟の頼朝（画：前田青邨）

8月28日未明、真鶴岬から船で安房へと向う。

岩の浦付近に源頼朝開帆処の石碑が建っている。



出港地(真鶴町 岩の浦)

2. 安房上陸から下総国府まで 謎の13日間



竜島（勝山海岸）

- ② 9月 3日 長狭六郎常伴と一戦場(鴨川市貝渚)で戦い、頼朝軍が勝利
- ③ 9月 5日 頼朝、館山市の洲崎神社に参拝
- ④ 9月11日 頼朝、丸の御厨(荘園)を巡見する
- 9月13日 上総国へ出発
- ⑤ 9月17日 下総国府にて千葉常胤と面会
- ⑥ 9月19日 隅田川べりで上総広常が合流
- ⑦ 10月 1日 習志野市鷺沼に滞在
- ⑧ 10月 2日 隅田川等を船で渡り、隅田宿到着
- 10月 6日 鎌倉に到着

竜島に上陸後、上総広常を頼り向かったが、安房の長狭六郎常伴の夜襲があり、まずは使者を有力者に送り自重することになった。その間、須崎神社に勝利祈願し、20年前寄進した丸の御厨を見学した。9日千葉常胤への使者が帰り、上総広常の動きを見て、13日目に上総国へ出発したのである。

① 8月29日 鋸南町竜島に上陸

義経記では、前夜、南の須崎で夜を明かして、翌日に小湊の渡りで、那古の観音を拝して、獵島（竜島）に着いたと記載されている。

頼朝の北上ルートは不明だが、見方につくよう交渉しながら、夷隅地域が本拠地の上総広常を避けて、内房寄りを北上したらしい。

滝川ラバーダム、染川亀沢堰の付近を通過したかも？



滝川 湊高井取水堰 (旧安房国府近く)



染川亀沢堰 (富津市)



富津、君津、木更津、市原には頼朝伝説がたくさん残っている。

「百騎坂」「百坂」「数馬」「三百坂」「三百騎坂」「千騎坂」「万騎坂」などの地名は、頼朝軍が通ったか、頼朝のもとへ房総各地から馳せ参ずる武士団の通った道ではないかと考えられる。

道は一般道路から離れているので忘れられてしまっている。

安房滞在中8日目には北条時政を甲斐源氏に使者として派遣し、甲斐、信濃との連携を図るなど準備が始められたのである。